

月刊しばうら

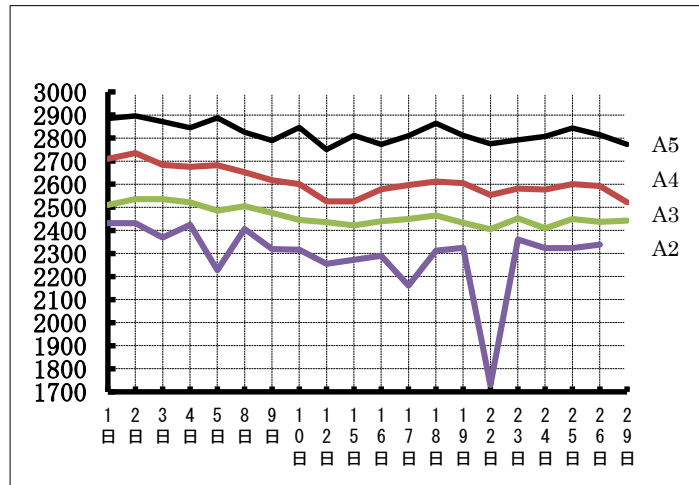
2016年3月号

大動物事業部

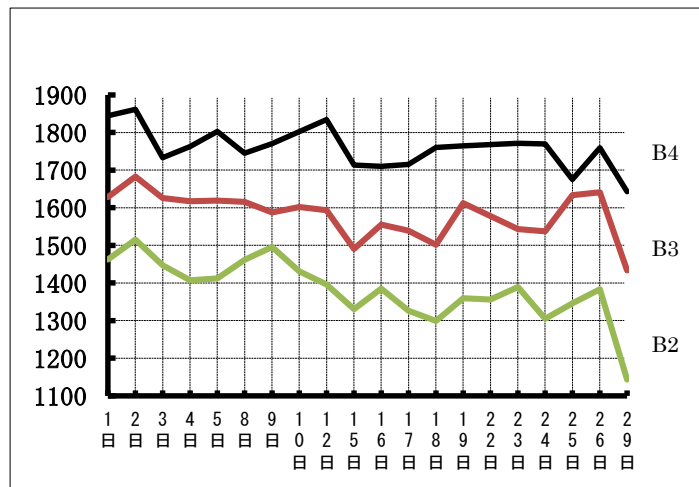
<2月の相場動向>

2月の牛枝肉相場は、年明けから堅調に推移していた枝肉相場も和牛去勢3・4等級で前月比を若干下回る相場展開となった。1月中旬から緩やかな下降基調となり同一規格等級でも枝肉の仕上がり具合により価格差が生じる相場となった。交雑牛は2・3等級が月初から下げ基調に入り、ジリ安が続いた。

和牛去勢 日別相場表 (2月)



交雑去勢 日別相場表 (2月)



和牛去勢月平均	前年同月比	前月比
A5 2,832円	116.3%	100.0%
A4 2,619円	116.4%	99.3%
A3 2,466円	116.3%	99.2%
A2 2,328円	118.7%	101.0%
交雑去勢月平均	前年同月比	前月比
B4 1,761円	109.9%	97.1%
B3 1,582円	104.1%	95.4%
B2 1,383円	96.1%	93.0%
乳牛去勢月平均	前年同月比	前月比
B3 上場なし		
B2 782円	95.4%	75.0%

<3月の全国出荷頭数予測>

家畜改良センターがまとめた平成28年1月末現在の個体識別情報による牛飼養頭数は前年比0.9%減の382万3,921頭で、交雑種を除いた和牛・乳用種の飼養頭数は回復していない。前月比では0.2%の微増となった。390万頭の大台割れは、16カ月連続でピーク時に比べて13%強も少ない。

農畜産業振興機構によると、3月の出荷予測頭数は、前年比0.9%減の3万7,900頭と予測している。品種別にみると和牛は0.9%減の3万7,900頭、交雑種は着実に増加傾向にあるため1.3%増の1万9,500頭、乳用種は1.7%減の3万2,500頭としている。

東京食肉市場の3月のと畜頭数は7,350頭を予定しています。

<3月の牛枝肉相場見通し>

3月の枝肉相場は、春先のイベント需要などで動きが活発化するものと予測されるが高単価品の和牛は販促が難しく交雑2・3等級の引き合いが強まるものと予測される。和牛は依然供給がタイトであるが需要は相場高で鈍化傾向にあり2月から大きな変化はなく、もちあい圏内で推移するものと予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,700~2,800	B4	1,700~1,800
A4	2,500~2,600	B3	1,500~1,600
A3	2,400~2,500	B2	1,300~1,400
A2	2,250~2,350		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	1,000~1,050		

<3月の牛肉輸入量予測>

財務省の貿易統計によると、1月の輸入牛肉通関量は前年同月比17.1%減の2万7,396tと3万tを割り込み、前年と比べ大きく減少した。前月比でも1万t近い減少となりチルドは米国産が前年に4割近く落ち込んだ反動もあり、1割程度上回ったが、豪州産は現地クリスマス休暇の影響などで前月から5千t弱減少している。フローゼンは前月比35%減と米国のバラだけで5千t弱減少するなど在庫調整局面に入っていることが伺える。

農畜産業振興機構は3月の牛肉輸入数量予測を、前年比1.2%減の3万4,700t。チルドは豪州産が牛群再構築に伴う出荷頭数の減少で、輸入量の減少が見込まれることで3.7%減の1万6,500t、フローゼンは前年に日豪EPA発効を前に通関の繰り延べが行われた反動の影響で、1.4%増の1万8,200tとわずかに上回ると予測している。

輸入牛肉通関量		1月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	7,716	8,581	88.9
	米国	5,598	3,194	175.3
	その他	868	970	89.5
	合計	14,182	12,745	111.3
フローゼン	豪州	8,386	8,293	101.1
	米国	3,531	8,188	43.1
	その他	1,297	3,835	33.0
	合計	13,214	20,316	65.0

単位：t

出典：食肉速報

小動物事業部

食肉流通統計によると、1月の全国と畜頭数は134万9,126頭（前年同月比100.0%）となり前年並みの頭数であった。

また、1月分の豚肉通関実績は、総量で7万3,443t（前年同月比136.1%）と前年より大幅に上回った。うちチルドが2万8,489t（同149.7%）と増加した。内訳は米国が1万7,040t（同174.6%）、カナダは1万471t（同121.2%）、メキシコが975t（同153.3%）と大幅に増加。フローゼンは4万4,954t（同128.6%）と前年を大きく上回り、デンマークが9,868t（同129.4%）、米国が4,019t（同71.0%）、カナダが3,850t（同171.9%）であった。

<2月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	65,800	529	512	900
2日	68,600	583	561	892
3日	66,400	564	535	858
4日	70,100	570	538	860
5日	70,900	569	531	894
8日	71,500	577	561	819
9日	74,600	607	582	973
10日	76,400	575	534	987
12日	77,700	550	523	1062

上旬の全国と畜頭数は1日あたり7万1,300頭と前年を上回る頭数であったものの、当市場は平均910頭と前年を下回る上場頭数であった。週前半はと畜頭数が7万頭に届かず、また、1月の相場安を受けて量販店は特売を組んでいたため、特売需要、鍋物需要は堅調であった。当市場は瞬間的に600円を超え、上物価格は平均500円後半まで推移した。

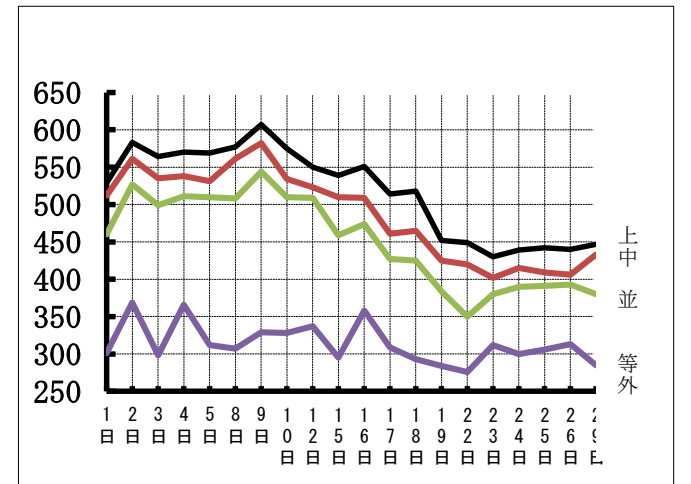
中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
15日	69,700	539	510	1061
16日	70,600	551	509	878
17日	66,400	514	461	779
18日	69,600	518	465	694
19日	70,200	452	425	993

中旬の全国と畜頭数は前年を上回ったものの、1日あたり6万9,300頭と7万頭を割り込んだ。当市場は平均880頭と前年を下回った。量販店の特売回数も減少してきたことや、特にロースなどの引き合いは鈍くなってきた。上旬の相場高から国産品から輸入品にシフトした事もあり上物価格は510円から420円まで大幅に下げた。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22日	67,800	449	420	678
23日	66,600	430	402	902
24日	65,900	439	415	720
25日	68,900	442	409	765
26日	69,300	440	406	910
29日	65,600	447	433	857

下旬の全国と畜頭数は6万7,300頭となり、前年を上回った。しかし当市場の上場頭数は平均800頭と前年を下回る上場頭数となった。依然として全体的な荷動きは鈍く、鍋物需要で引き合いのあったバラも気温の上昇とともに鈍化してきた。上物価格は400円から420円で推移した。

豚 日別相場表 (2月)



<3月の豚枝肉相場見通し>

農水省による3月の全国と畜頭数は、141万3,000頭（前年同月比103.0%）と予測しており、一日当たりの頭数は約6万4,200頭である。当市場の3月の集荷予定頭数は1万8,000頭となっており、一日当たりでは約820頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構による3月分の豚肉輸入見込数量は、総量で6万4,300t（前年同月比98.4%）の予測となっている。内訳はチルドが2万6,800t（同92.5%）、フローゼンは3万7,500t（同103.1%）の予測である。

また12月における豚肉推定在庫量は、国産品が1万6,149t（前年同月比81.2%）、輸入品は13万7,828t（同81.5%）となり合計15万3,977t（同81.5%）となった。推定出回り量は15万3,684t（前年比101.8%）で前年を上回った。うち国産品は8万358t（同102.2%）輸入品は7万3,325t（同101.4%）であった。国内生産量は8万704トン（同101.6%）と引き続き前年を上回った。

このような状況の中、いまだPEDは散発的に発生しているものの、と畜頭数、輸入見込み数量もほぼ前年並みの予測が出ている。また3月は決算期を迎える企業も多く、月末にかけて軟調な相場になると思われる。よって平均上物480円・中物450円前後を予測する。

出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、東京食肉市場では防疫体制を強化しております。来場の際における生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL <http://www.tmmc.co.jp/>